

# 聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

## 第4章 ダビデと他の詩篇記者たちの祈り④



### 神を認識する 賛美と礼拝

#### 神を認識する

祈りは、語りかける対象である神に対する適切な認識から離れてしまうと、ほとんど祈りとは呼べないものになってしまいます。詩的の祈りは、この点において最も優れた模範と言えます。

適切な言葉の使用という点で、詩篇の祈りの表現が保つ非常に高い水準は、何にも替えがたいものとなっています。私たちは詩篇の中に「ディボーションのための言葉のまさに類義語辞典」をいただいているのです。それらの表現の気高さと優雅さを見るとき、私たちはそこに、神に近づいていくに際して用いることのできる、豊かな語彙（ごい）を学ぶことができるのです。

ダビデと他の詩篇記者が、神の大いなる力と栄光、誠実さ、正義、絶えることのない愛を繰り返しほめたたえている様子を見てみましょう。神は創造者であり、全てのものを保っておられる方です。恵みに満ち、赦すに早い、素晴らしい神です。そして、永遠の方であるがゆえに、常にいてくださる方であり、常に助けを求めることのできる方です。私たちは常に、確信を持ってこの方に近づくことができます。この方は私たちを気づかせてくださるからです(ナホム 1:7、エペソ 5:29、ヘブル 4:16、I ペテロ 5:7 を参照)。讚美をお捧げすることにより、私たちは神がどのような方か、これまでに何をしてくださり、何をなさることのできる方かを認識しつつ、そのご臨在の中に導き入れられていくのです。



私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。あなたのご威光は天でたたえられています。(8:1)

主よ。あなたの恵みは天にあり、あなたの真実さは雲にまで及びます。あなたの義は高くそびえる山のように、あなたのさばきは深い海のように。… あなたの恵みは、なんと尊いことでしょう。… (36:5-7)

主は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。その聖なる山、われらの神の都において。(48:1)

私たちの救いの神よ。…あなたは、地のすべての果て果て、遠い大海の、信頼の的。あなたは、御力によって山々を堅く建て、力を帯びておられます。あなたは、海のとどろき、その大波のとどろき、また国々の民の騒ぎを静められます。(65:5-7)

神の力を認めよ。みいつはイスラエルの上に、御力は雲の上にある。神よ。あなたはご自身の聖なる所におられ、恐れられる方です。イスラエルの神こそ力と勢いとを御民にお与えになる方です。ほむべきかな。神。(68:34-35)

まことにあなたはいつくしみ深く、赦しに富み、あなたを呼び求めるすべての者に、恵み豊かであられます。…しかし主よ。あなたは、あわれみ深く、情け深い神。怒るのにおそく、恵みとまことに富んでおられます。(86:5,15)

主は、王であられ、みいつをまとめておられます。主はまとめておられます。力を身に帯びておられます。まことに、世界は堅く建てられ、揺らぐことはありません。あなたの御座は、いにしえから堅く立ち、あなたは、とこしえからおられます。(93:1-2)

主は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である。地の深みは主の御手のうちにあり、山々の頂も主のものである。海は主のもの。主がそれを造られた。陸地も主の御手が造られた。(95:3-5)

わがたましいよ。主をほめたたえよ。わが神、主よ。あなたはまことに偉大な方。あなたは尊厳と威光を身にまとめておられます。あなたは光を衣のように着、天を、幕のように広げておられます。水の中にご自分の高殿の梁を置き、雲をご自分の車とし、風の翼に乗って歩かれます。風をご自分の使いとし、焼き尽くす火をご自分の召使いとされます。また地をその基の上に据えられました。地はそれゆえ、とこしえにゆるぎません。(104:1-5)

---

**神に対する私たちの認識は、私たちの祈りに大いに左右されます。**神は真にあがめられるべき方であり、ダビデは神をそのように認識していましたが、同時に、彼は神を、人生のあらゆる局面に直接に関係のある方として結びつけるという賜物を持った人でもありました。神を描くのに用いられている言葉の豊かさを見ると、それは実に印象的なものとなっています。

盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方(すなわち、敵に対して勝利を与えてくださること)(3:3)

わが力、わが巖、わがとりで、わが救い主、わが盾、わがやぐら(18:1-2)

私の羊飼い(23:1)

私を助ける方(54:4)

私の望み(71:5)

私の分の土地(73:26)

昔から私の王(74:12)

神なる主、太陽、盾(84:11)

わが父(89:26)

私たちの住まい(90:1)

私のほめ歌(118:14)



あなたの右の手をおおう陰(すなわち、守るためにすぐそばにいてくださる方)、守り(121:5、7)  
私の恵み(144:2)

## 讚美と礼拝

**讚美と礼拝(プレイズ&ワーシップ)は、祈りにおいて本質的な要素です。**ダビデはあらゆる場合において、この高く聖なる行いを先導する人でした。他の詩篇記者は彼の模範に倣っています。

私は心を尽くして主に感謝します。あなたの奇しいわざを余すことなく語り告げます。私は、あなたを喜び、誇ります。いと高き方よ。あなたの御名をほめ歌います。(9:1-2)

彼はこう言った。主、わが力。私は、あなたを慕います。主はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。ほめたたえられる方、この主を呼び求めると、私は、敵から救われる。(18:1-3)

主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。朝に、あなたの恵みを、夜ごとに、あなたの真実を言い表すことは。十弦の琴や六弦の琴、それに立琴によるたえなる調べに合わせて。主よ。あなたは、あなたのなさったことで、私を喜ばせてくださいましたから、私は、あなたの御手のわざを、喜び歌います。主よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御計らいは、いとも深いのです。(92:1-5)

わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、鷺のように、新しくなる。(103:1-5)

私の神、王よ。私はあなたをあがめます。あなたの御名を世々限りなく、ほめたたえます。日ごとにあなたをほめたたえ、あなたの御名を世々限りなく賛美します。主は大いなる方。大いに賛美されるべき方。その偉大さを測り知ることができません。(145:1-3)

これらの箇所においても、あらためて、ダビデと他の詩篇記者たちがあらゆることについて、とりわけ楽器による音楽や歌を含めたあらゆる手段を用いて、主をほめたたえているのが見られます。彼らの讚美は、いくつかの決まり文句を形式的に反復しているものではありません。詩篇は時として、会衆全体の礼拝のために、あるいは特別な機会を祝うために作られたものであるとはいえ、それらはいずれも、**聖霊によって心動かされ、心をかき立てられた人々によって作られたものです。**これらの詩は、心と魂のすべてを礼拝に注ぎ込むようにと、また人生のあらゆる局面において必要を満たしてくださる神をほめたたえるようにと、礼拝者を励ますものとなったのです。



## ? 質問

- 1 詩篇は祈りの宝庫です。詩篇の中に「ディボーションのための言葉のまさに類義語辞典」があると言えるのはなぜですか？
- 2 詩篇の中で、神はどのような方として表現されていますか？  
引用されている詩篇のことばを読んで、神がどのような方だと知ることができますか？
- 3 ダビデは、神を真にあがめるべき方として、また、人生のあらゆる局面に直接に関係のある方として認めていました。  
あなたも、神が自分の人生と直接に関係のあるお方だと認めていますか？  
そのように認めるにはどうしたらよいと思いますか？
- 4 詩篇にある神への讚美と礼拝のことばは、私たちにどのような励ましを与えてくれますか？  
今、あなたにとって、詩篇のどのことばが励ましを与えてくれますか？
- 5 自分の祈りについて、決まり文句が多くなっていたりマンネリ化していたりと思うことがありますか？  
どうしたら、もっと豊かな祈りができるようになると思いますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？  
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

偉大な神さま、貧しい私の言葉を助けて下さい。あなたをあげめる豊かな言葉を与えて下さい。神の言葉の中に身を置く恵みを今日も教えて下さい。あまりにも悟りの鈍い者に、人生の折々でああなたがどういふ方が悟る鋭敏な感覚を与えて下さい。私の知性、感情、意志のすべてを聖霊で満たして下さい。